

授業科目	総合演習（卒業研究）		単位数	2	担当教員	近 喰 晴 子
講義のねらいと概要	<p>保育、幼児教育に関連する幅広い分野から、学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。</p> <p>研究テーマとしては、保育内容、方法、環境、教材研究など保育現場に密着した分野を中心とし、文献や視聴覚教材、施設見学、調査研究などを通し論文をまとめる。</p>					
授業計画	第1週	授業の進め方	第16週	研究論文の執筆		
	第2週	文献、視聴覚教材による基礎研究	第17週	"		
	第3週	"	第18週	"		
	第4週	テーマの設定	第19週	"		
	第5週	"	第20週	"		
	第6週	文献、資料などの収集	第21週	"		
	第7週	"	第22週	"		
	第8週	"	第23週	"		
	第9週	調査、研究の方法	第24週	中間発表		
	第10週	"	第25週	論文の修正		
	第11週	論文の執筆について	第26週	"		
	第12週	中間発表	第27週	"		
	第13週	"	第28週	論文発表		
	第14週	論文の検討	第29週	"		
	第15週	"	第30週	まとめ		
指導方法履修上の注意	自分の研究テーマを明確にし、積極的に取り組むことを期待する。					
成績評価の方法	論文（70％）#論文提出の締め切りは12/21、発表（20％）#提出後、指導教員から修正を求められた場合は、その作業も発表に含み評価を行う、授業態度（10％）					
教科書	特になし					
参考文献	特になし。必要に応じ紹介する。					

授業科目	総合演習（卒業研究）		単位数	2	担当教員	橋本洋子
講義のねらいと概要	<p>保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。</p> <p>研究テーマとしては、子ども・保護者・保育者など子どもを取り巻く食環境や健康全般にわたる。「食物アレルギー」「母乳」「妊産婦の食生活」「食教育」「子どもの肥満」「好き嫌いと偏食」などを中心とし、保育所等でのフィールドワーク、文献研究、調査等から論文としてまとめる。</p>					
授業計画	第1週	講義の方針と進め方について	第16週	論文の執筆・フィールドワーク		
	第2週	各学生により研究テーマの選定・計画	第17週	論文の執筆・フィールドワーク		
	第3週	各学生により研究テーマの選定・計画	第18週	論文の執筆・フィールドワーク		
	第4週	各学生により研究テーマの選定・計画	第19週	論文の執筆・フィールドワーク		
	第5週	文献・資料収集、観察	第20週	論文の執筆・データ解析		
	第6週	文献・資料収集、観察	第21週	論文の執筆・データ解析		
	第7週	文献・資料収集、観察	第22週	論文の執筆・データ解析		
	第8週	先行研究の発表	第23週	論文の執筆・データ解析		
	第9週	先行研究の発表	第24週	論文の執筆・データ解析		
	第10週	先行研究の発表	第25週	論文の修正		
	第11週	研究内容の方向づけ	第26週	論文の修正		
	第12週	研究内容の方向づけ	第27週	論文の修正		
	第13週	論文執筆の説明	第28週	論文発表		
	第14週	論文内容の検討	第29週	論文発表		
	第15週	論文内容の検討	第30週	まとめ		
指導方法履修上の注意	<p>ここでは「食」や「健康」などに関連する様々な分野から、演習生それぞれが興味に基づき研究をすすめていく。保育者としての視点からテーマをもち文献研究および観察研究をして、論文としてまとめていく。それぞれが自分の研究テーマに向かって積極的に取り組むことを期待する。先行論文や白書などを参考に情報を収集し、綿密な計画を立て、取り組んでほしい。</p>					
成績評価の方法	論文（70％）#論文提出の締め切りは12/21、発表（20％）#提出後、指導教員から修正を求められた場合は、その作業も発表に含み評価を行う、授業態度（10％）					
教科書	特になし					
参考文献	必要に応じて随時紹介する。					

授業科目	総合演習（卒業研究）		単位数	2	担当教員	加賀谷 崇文
講義のねらいと概要	<p>保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。</p> <p>研究テーマとしては、臨床心理学に関連する「母子関係」「保育者のメンタルケア」「子育て支援」などを中心とする。</p>					
授業計画	第1週	講義の方針と年間計画	第16週	論文の執筆		
	第2週	各学生によるテーマの選定	第17週	論文の執筆		
	第3週	各学生によるテーマの選定	第18週	論文の執筆		
	第4週	各学生によるテーマの選定	第19週	論文の執筆		
	第5週	文献の収集	第20週	論文の執筆		
	第6週	文献の収集	第21週	論文の執筆		
	第7週	文献の収集	第22週	論文の執筆		
	第8週	先行研究の発表	第23週	論文の執筆		
	第9週	先行研究の発表	第24週	論文の執筆		
	第10週	先行研究の発表	第25週	論文の執筆		
	第11週	先行研究の発表	第26週	論文の修正		
	第12週	先行研究の発表	第27週	論文の修正		
	第13週	論文執筆の説明	第28週	論文発表会		
	第14週	論文内容の検討	第29週	論文発表会		
	第15週	論文内容の検討	第30週	まとめ		
指導方法履修上の注意	自分の研究テーマを明確にし、積極的に取り組むことを期待する。					
成績評価の方法	論文（70％）#論文提出の締め切りは12/21、発表（20％）#提出後、指導教員から修正を求められた場合は、その作業も発表に含み評価を行う、授業態度（10％）					
教科書	特になし					
参考文献	特になし					

授業科目	総合演習（卒業研究）		単位数	2	担当教員	土屋 由
講義のねらいと概要	<p>保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。</p> <p>主なテーマとしては、「保育内容」「子どもの生活・遊びや文化に関すること」「育児」についてなどである。保育所・幼稚園・家庭をフィールドとする質的研究および文献研究を行い、論文としてまとめることを目的とする。</p>					
授業計画	第1週	講義の方針と年間計画	第16週	調査の実施		
	第2週	保育所や幼稚園の見学	第17週	調査の実施		
	第3週	保育所や幼稚園の見学	第18週	結果の整理		
	第4週	研究テーマの選定	第19週	結果の整理		
	第5週	研究テーマの選定	第20週	結果の整理		
	第6週	テーマについて必要な文献を集める	第21週	考察を進める		
	第7週	テーマについて必要な文献を集める	第22週	考察を進める		
	第8週	先行研究の検討	第23週	考察を進める		
	第9週	先行研究の検討	第24週	結論および今後の課題の検討		
	第10週	先行研究の検討	第25週	結論および今後の課題の検討		
	第11週	問題の所在を明らかにする	第26週	論文の修正		
	第12週	問題の所在を明らかにする	第27週	論文の修正		
	第13週	調査方法および分析の視点の検討	第28週	論文発表会		
	第14週	テーマ・問題の所在・調査方法の発表	第29週	論文発表会		
	第15週	テーマ・問題の所在・調査方法の発表	第30週	まとめ		
指導方法履修上の注意	研究テーマを明確にすること、必要な文献をしっかりと読みこなすことを期待する。					
成績評価の方法	論文（70％）#論文提出の締め切りは12/21、発表（20％）#提出後、指導教員から修正を求められた場合は、その作業も発表に含み評価を行う、授業態度（10％）					
教科書	特になし					
参考文献	『大学生のためのレポート・論文術』（小笠原喜康、講談社新書） 『論文の教室』（戸田山和久、NHKブックス）					

授業科目	総合演習（卒業研究）		単位数	2	担当教員	大輪公吉
講義のねらいと概要	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。					
授業計画	第1週	オリエンテーション	第16週	中間報告		
	第2週	音楽領域研究の方法	第17週	論文の推敲		
	第3週	〃	第18週	〃		
	第4週	〃	第19週	〃		
	第5週	テーマの設定とグループ分け	第20週	最終報告		
	第6週	テーマの決定	第21週	〃		
	第7週	テーマに関する図書研究	第22週	〃		
	第8週	〃	第23週	〃		
	第9週	〃	第24週	卒業論文指導		
	第10週	資料検索と論文書式	第25週	〃		
	第11週	〃	第26週	〃		
	第12週	〃	第27週	〃		
	第13週	中間報告	第28週	〃		
	第14週	〃	第29週	卒業論文報告		
	第15週	〃	第30週	〃		
指導方法履修上の注意	自分の研究テーマを明確にし、積極的に取り組むことを期待する。					
成績評価の方法	論文(100%)*論文提出の締め切りは12/21 *提出後、指導教員から修正を求められた場合は、その作業も発表に含み評価を行う。					
教科書	授業内で指示					
参考文献	授業内で指示					

授業科目	総合演習（卒業研究）		単位数	2	担当教員	星野 治
講義のねらいと概要	<p>保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成します。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われます。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深めます。</p> <p>本演習では、「防災」「情報」「数量」などの任意のキーワードと保育・幼児教育との相互関係を、既存資料の中から採り出し、総合報告（レビュー）の形で整理します。レビューの作成を通して、保育・幼児教育のありかたに関する各自の考えをまとめます。</p>					
授業計画	第1週	前期ガイダンス （演習の目的、進めかたなど）	第16週	後期ガイダンス （卒論テーマ、論文の書きかた）		
	第2週	既存資料の紹介・鑑賞(1) （資料の検索・選択）	第17週	既存資料の紹介・鑑賞(13) （特定の視点からみた複数の資料の選択）		
	第3週	既存資料の紹介・鑑賞(2) （資料の内容の読解）	第18週	既存資料の紹介・鑑賞(14) （複数資料の総合評価）		
	第4週	既存資料の紹介・鑑賞(3) （資料の内容に対する解釈・考察）	第19週	既存資料の紹介・鑑賞(15) （複数資料の総合評価の文章化）		
	第5週	既存資料の紹介・鑑賞(4) （資料に関するレポートの作成）	第20週	既存資料の紹介・鑑賞(16) （複数資料の総合評価の発表）		
	第6週	既存資料の紹介・鑑賞(5) （資料に関するレポートの発表）	第21週	第17週～第20週のまとめ		
	第7週	既存資料の紹介・鑑賞(6) （資料に関するレポートの発表）	第22週	卒論の作成(1) （卒論テーマの決定）		
	第8週	第2週～第7週のまとめ		第23週 卒論の作成(2) （卒論作成方針の決定）		
	第9週	既存資料の紹介・鑑賞(7) （類似テーマを扱った複数の資料の選択）	第24週	卒論の作成(3) （総合報告の文章化）		
	第10週	既存資料の紹介・鑑賞(8) （複数資料の内容の読解）	第25週	卒論の作成(4) （卒論内容の中間発表）		
	第11週	既存資料の紹介・鑑賞(9) （複数資料の内容に対する解釈・考察）	第26週	卒論の作成(5) （卒論の加筆修正）		
	第12週	既存資料の紹介・鑑賞(10) （複数資料に関するレポートの作成）	第27週	卒論の作成(6) （卒論の完成および提出）		
	第13週	既存資料の紹介・鑑賞(11) （複数資料に関するレポートの発表）	第28週	卒論の作成(7) （卒論内容の本発表）		
	第14週	既存資料の紹介・鑑賞(12) （複数資料に関するレポートの発表）	第29週	卒論の作成(8) （卒論の最終修正）		
	第15週	第9週～第14週のまとめ		第30週 全体のまとめ		
指導方法履修上の注意	<p>1. 文献等（文芸作品、学術論文、その他）の輪講および鑑賞が、主な授業内容となります。</p> <p>2. 総合報告の作成には、できる限り多数の資料を参照することが必要です。授業期間内に利用した資料はできる限り、卒論作成に活かすことが望ましいと考えます。</p> <p>3. 卒論作成の具体的な作業方針としては、次の二通りが考えられます。</p> <p style="padding-left: 2em;">[1] 卒論テーマを最初から意識した資料の選定。</p> <p style="padding-left: 2em;">[2] 選定した資料に基づく卒論テーマの絞り込み。</p> <p>これまでの卒論指導の経験上、できる限り作業方針[1]を推奨します。卒論テーマの絞り込みが遅くなればなるほど、論文の執筆開始もまた遅くなります。上記の「授業計画」では後期中盤に卒論テーマの決定を行うとありますが、実際には、前期のうちに卒論テーマの概要を固めておかないと、作業時間不足のため“生煮えの卒論”を提出する破目になります。</p> <p>4. 入手困難な資料類（例：他大学付属図書館の所蔵する学術論文、出版時期の古い雑誌、その他）が必要となった場合、早めに担当教員へ相談してください。</p>					
成績評価の方法	論文（70%）[平成24年度の論文提出締切日は12月21日] 発表（20%）[提出後、指導教員から修正を求められた場合は、その作業も発表に含み評価を行う] 授業態度（10%）					
教科書	必要に応じて指定します。					
参考文献	必要に応じて随時紹介します。					

授業科目	総合演習（卒業研究）		単位数	2	担当教員	伊藤明芳
講義のねらいと概要	<p>保育、幼児教育に関連する幅広い分野から、学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じて保育者として必要な専門的知識をさらに深める。</p> <p>研究テーマ；</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発達心理学など、子どもや教育に関わる心理学分野 2. 「子育て支援」に関する分野 3. 「保育相談」、「カウンセリング」などの分野 					
授業計画	第1週	本ゼミの方針と年間計画	第16週	論文執筆		
	第2週	論文作成についての概説	第17週	論文執筆		
	第3週	各学生による研究テーマの選定	第18週	論文執筆		
	第4週	各学生による研究テーマの選定	第19週	論文執筆		
	第5週	各学生による研究テーマの選定	第20週	論文執筆		
	第6週	各学生による研究テーマの選定	第21週	論文執筆		
	第7週	文献・資料収集	第22週	論文執筆		
	第8週	文献・資料収集	第23週	論文執筆		
	第9週	文献・資料収集	第24週	論文の修正		
	第10週	卒論計画の発表	第25週	論文の修正		
	第11週	卒論計画の発表	第26週	論文の修正		
	第12週	卒論計画の発表	第27週	論文の修正		
	第13週	論文執筆の説明	第28週	論文発表会		
	第14週	論文内容の検討	第29週	論文発表会		
	第15週	論文内容の検討	第30週	まとめ		
指導方法履修上の注意	自分の研究テーマを明確にして、根気強く、楽しく卒業研究に取り組むことを期待する。					
成績評価の方法	論文（70%）#論文提出の締め切りは12/21、発表（20%）#提出後、指導教員から修正を求められた場合は、その作業も発表に含み評価を行う、授業態度（10%）					
教科書	特に指定しない					
参考文献	講義の際に随時紹介					

授業科目	総合演習（卒業研究）		単位数	2	担当教員	金子 真由子
講義のねらいと概要	<p>保育、幼児教育に関連する幅広い分野から、学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。</p> <p>研究テーマとしては、子どもと環境（他者、空間、情報など）との関係、もしくは保育者の専門性を中心とし、文献、視聴覚教材、調査、フィールドワークなどを通して論文をまとめる。</p>					
授業計画	第1週	授業の進め方	第16週	論文の執筆		
	第2週	文献、視聴覚教材による基礎研究	第17週	論文の執筆		
	第3週	文献、視聴覚教材による基礎研究	第18週	論文の執筆		
	第4週	研究テーマの設定	第19週	論文の執筆		
	第5週	研究テーマの設定	第20週	論文の執筆		
	第6週	研究方法の理解 - 文献・資料の収集 -	第21週	論文の執筆		
	第7週	研究方法の理解 - 文献・資料のまとめ方 -	第22週	論文の執筆		
	第8週	研究方法の理解 - 調査・研究の方法 -	第23週	論文の執筆		
	第9週	論文の構成	第24週	中間発表		
	第10週	論文の構成	第25週	論文の修正		
	第11週	中間発表	第26週	論文の修正		
	第12週	中間発表	第27週	論文の修正		
	第13週	論文の執筆	第28週	論文発表		
	第14週	論文の執筆	第29週	論文発表		
	第15週	論文の執筆	第30週	まとめ		
指導方法履修上の注意	自分の研究テーマを明確にし、積極的に取り組むことを期待する。					
成績評価の方法	論文（70％）#論文提出の締め切りは12/21、発表（20％）#提出後、指導教員から修正を求められた場合は、その作業も発表に含み評価を行う、授業態度（10％）					
教科書	特になし。					
参考文献	必要に応じて随時紹介する。					

授業科目	保 育 原 理	単位数	2	担当教員	土 屋 由
講義のねらいと概要	<p>保育原理 での学びを踏まえ、保育者に求められる役割や保育・子どもを取り巻く現状と課題について学んでいく。さらに、グループで保育者論について調べてみるなどの作業では、実践にふれて調べてみる・考えてみるという実践と理論を結びつけていくことにも取り組んでほしいと考えている。講義を通して、保育や子どもを取り巻く社会状況や保育実践への理解を深めることをねらいとする。</p>				
授業計画	第1週	オリエンテーション			
	第2週	保育者に求められるもの 子どもの願いから			
	第3週	保育者に求められるもの 親の願いから			
	第4週	保育者に求められるもの ともに働く者の願いから			
	第5週	保育者に求められるもの、まとめ			
	第6週	保育・子どもを取り巻く現状と課題 子どもと保護者を取り巻く課題			
	第7週	保育・子どもを取り巻く現状と課題 保育施策の現状			
	第8週	保育・子どもを取り巻く現状と課題 保育の展望			
	第9週	保育・子どもを取り巻く現状と課題、まとめ			
	第10週	グループワーク「保育に関する書籍から、様々な人の保育者論を集め、共通点や著者固有の主張を学ぶ」			
	第11週	グループワーク			
	第12週	グループワーク			
	第13週	グループワーク			
	第14週	グループワーク 発表			
	第15週	まとめ			
指導方法履修上の注意	他の受講生の意見や考えを聞き、自分の考えと相対化することで、深めてほしい。				
成績評価の方法	課題・提出物(70%)、発表(30%)				
教科書	『幼稚園教育要領・保育所保育指針』				
参考文献	参考文献は、授業において紹介する。				

授業科目	発達心理学		単位数	2	担当教員	伊藤明芳
講義のねらいと概要	<p>本講義では、「発達心理学」の講義内容を踏まえて、発達心理学の基礎的知識の拡充と現場で生きる実践的能力の応用を図ることを目的とする。</p> <p>人(子ども、保護者)の心の理解、保育方法の工夫への手立て、家庭や保護者との関わり、保育者自身の心の安定と成長などにもアプローチしたいと考えている。</p>					
授業計画	第1週	イントロダクション [発達心理学を学ぶ意義]	第16週	発達障害 [発達障害とは]		
	第2週	発達を理解するための基礎 [発達心理学とは何か・研究方法]	第17週	発達障害 [発達障害の種類]		
	第3週	発達を理解するための基礎 [発達を考える]	第18週	発達障害 [発達障害の特徴]		
	第4週	発達を理解するための基礎 [発達理論の復習と応用]	第19週	発達障害 [発達障害の理解]		
	第5週	発達を理解するための基礎 [さまざまな発達理論]	第20週	発達障害 [発達障害の対応]		
	第6週	発達を理解するための基礎 [発達心理学をどのように保育に活用するか]	第21週	発達障害 [発達障害へのアプローチ]		
	第7週	知的側面の発達 [理論の概要]	第22週	(ビデオ視聴)		
	第8週	知的側面の発達 [基礎理論とその応用]	第23週	子どもへの関わりと保育方法の工夫 [概要]		
	第9週	知的側面の発達 [実践へのヒント]	第24週	子どもへの関わりと保育方法の工夫 [視点の変換]		
	第10週	情緒的発達 [理論の概要]	第25週	家庭、保護者との連携 [概要]		
	第11週	情緒的発達 [基礎理論とその応用]	第26週	家庭、保護者との連携 [視点の変換]		
	第12週	情緒的発達 [実践へのヒント]	第27週	保育者自身の心の健康 [保育者の心の悩み]		
	第13週	社会的発達 [理論の概要と実践へのヒント]	第28週	保育者自身の心の健康 [ストレス対処]		
	第14週	前期のまとめ	第29週	一年間のまとめ		
	第15週	後期の学習へのアドバイスと試験	第30週	今後へのアドバイスと試験		
指導方法履修上の注意	<p>講義を中心におこなう。実際の事例などをあげ、受講生にわかりやすい内容を心がけたい。</p> <p>その他、事例研究やビデオ視聴等で理解を深め、それを保育の実践に活かすことを考える。</p> <p>受講者には自ら学び考える意欲をもって授業に参加する態度が求められる。</p>					
成績評価の方法	筆記試験(60%)、レポート(40%)					
教科書	特に指定しない					
参考文献	講義の際に随時紹介					

授業科目	小 児 保 健	単位数	2	担当教員	駒 松 仁 子
講義のねらいと概要	<p>子どもは病気や障害を抱えている場合も、それぞれの子どものペースで成長発達している。小児保健 の学習を基盤として、病気や障害を抱える子どもの保育における配慮や家族への支援のありかたを学ぶ。さらに病児・病後児保育事業や病棟保育の歴史を理解し、医療の場における保育士の役割について学ぶ。</p>				
授業計画	第1週	病児・病後児保育事業（1）			
	第2週	病児・病後児保育事業（2）			
	第3週	病児・病後児保育事業（3）			
	第4週	病気の子どもと親の心理（1）			
	第5週	病気の子どもと親の心理（2）			
	第6週	医療保育とは（1）			
	第7週	医療保育とは（2）			
	第8週	医療保育とは（3）			
	第9週	プリパレーションとは（1）			
	第10週	プリパレーションとは（2）			
	第11週	配慮を要する子どもの保育（1）（低出生児で生まれた子どもの保育）			
	第12週	配慮を要する子どもの保育（2）（長時間保育）			
	第13週	配慮を要する子どもの保育（3）（心配な子どもの行動への理解）			
	第14週	配慮を要する子どもの保育（4）（心配な子どもの行動への理解）			
	第15週	配慮を要する子どもの保育（5）（心配な子どもの行動への理解）			
指導方法 履修上の 注 意	配布資料やビデオなどを用いて講義を行う。				
成績評価の 方 法	レポート（80%）、授業態度（20%）				
教 科 書	指定なし。授業の都度、資料を配布する。				
参 考 文 献	授業の都度、参考文献を提示する。				

授業科目	小児保健実習		単位数	1	担当教員	駒松仁子
講義のねらいと概要	小児保健の学習を基盤として、保育・養護、異常の早期発見、病気の予防、事故防止と救急処置、子どもによく見られる症状に対する対応について学ぶとともに、基礎的技術について実習を通して学ぶ。					
授業計画	第1週	子どもの保育と保健・養護	第16週	小児によくみられる症状と対応(3)		
	第2週	子どもの生活環境	第17週	小児によくみられる症状と対応(4)		
	第3週	乳幼児の養護(1)	第18週	小児によくみられる症状と対応(5)		
	第4週	乳幼児の養護(2)	第19週	子どもへの一般的なケアの方法(1)		
	第5週	乳幼児の養護(3)	第20週	子どもへの一般的なケアの方法(2)		
	第6週	乳幼児の養護(4)	第21週	特別の配慮を要する子どもの理解		
	第7週	乳幼児の養護(5)	第22週	乳幼児の事故と応急処置		
	第8週	乳幼児の養護(6)	第23週	試験 (第23週で終了)		
	第9週	小児の健康状態の観察と記録	第24週			
	第10週	バイタルサインの計測と評価(1)	第25週			
	第11週	バイタルサインの計測と評価(2)	第26週			
	第12週	乳幼児の身体計測と評価(1)	第27週			
	第13週	乳幼児の身体計測と評価(2)	第28週			
	第14週	小児によくみられる症状と対応(1)	第29週			
	第15週	小児によくみられる症状と対応(2)	第30週			
指導方法 履修上の 注意	講義およびビデオやモデル人形を使用して、基礎的な知識と技術が習得できるように指導する。 講義で配布した資料は、毎回の授業に必ず持参すること。					
成績評価の 方法	筆記試験(60%)、実技(20%)、授業態度(20%)					
教科書	指定なし。授業の都度、資料を配布する。					
参考文献	授業の都度、参考文献を提示する。					

授業科目	精神保健	単位数	2	担当教員	加賀谷 崇文
講義のねらいと概要	<p>こころ（精神）の健康は、その個人の内的世界とともに、それを取り巻く全ての環境と密接に関係している。そこで、こころの健康の概念について論じ、その維持に関わる様々な要因について説明する。</p> <p>また、乳幼児期、青年期のこころの問題をとりあげ、悩んでいる人々の行動特徴などを紹介する。そのことが、精神保健について考えるきっかけになれば幸いである。</p>				
授業計画	第1週	精神保健とは			
	第2週	こころの健康			
	第3週	統合失調症			
	第4週	不安障害など			
	第5週	人格障害			
	第6週	筆記試験 1			
	第7週	子どものメンタルヘルス			
	第8週	保育と子どものこころ			
	第9週	発達障害など 1			
	第10週	発達障害など 2			
	第11週	筆記試験 2			
	第12週	保育士のメンタルヘルス			
	第13週	子育てとメンタルヘルス			
	第14週	子育て支援			
	第15週	筆記試験 3			
指導方法 履修上の 注意	内容が多分野に渡るため、試験を3回に分けて行う。毎回の講義をよく聴くこと。				
成績評価の方法	筆記試験（90%）授業態度（10%）				
教科書	『子育て支援を考えるために』（須永 進 編著、蒼丘書林）				
参考文献					

授業科目	社会福祉援助技術		単位数	2	担当教員	松田鉄蔵
講義のねらいと概要	援助技術という行政関連領域での手法と考えがただが、その手法は保育所。児童福祉施設での業務と大いに関連していることの理解の上に、基本的な技法を理論的に習得して、次に実際の多くの事例への対応をグループで討議する中で、援助技術を習得していく。保育現場での保護者からの相談に応じられる基礎的理論と、対応技法を学びとって欲しい。					
授業計画	第1週	授業の概要 社会福祉援助技術とは	第16週	集団援助技術の基礎知識 グループの種類と援助行動		
	第2週	保育現場の動向と社会福祉援助技術 1. エンゼルプランにみる新しい保育所の姿	第17週	地域援助技術 地域援助技術の性格と展開過程		
	第3週	保育現場の動向と社会福祉援助技術 2. 児童福祉施設における保育士の役割	第18週	地域援助技術 地域援助技術の方法モデル		
	第4週	社会福祉援助技術とは何か 1. 社会福祉援助技術の歴史	第19週	地域援助技術の4つの手法		
	第5週	社会福祉援助技術とは何か 2. 日本の社会福祉援助技術の発展過程	第20週	ケースマネージメントの概要		
	第6週	社会福祉援助技術とは何か 3. 社会福祉援助技術と専門職	第21週	ケースマネージメントの流れ		
	第7週	社会福祉援助技術とは何か 4. 社会福祉援助技術の体系	第22週	ケースマネージメントの実際 問題をとらえる視点		
	第8週	社会福祉援助技術の原則と展開 対人援助専門職としての援助関係	第23週	ケースマネージメントの実際 援助者の役割		
	第9週	社会福祉援助技術の原則と展開 バイステノクの原則	第24週	保育所における援助 事例の概要		
	第10週	社会福祉援助技術の原則と展開 社会福祉援助技術の展開過程	第25週	保育所における援助 援助経過		
	第11週	援助的コミュニケーション コミュニケーション技法	第26週	保育所における援助 援助経過		
	第12週	援助的コミュニケーション 面接の技法	第27週	児童福祉施設における援助 事例の概要		
	第13週	記録の取り方・活かし方 記録の意義と目的	第28週	児童福祉施設における援助 援助経過		
	第14週	記録の取り方・活かし方 記録における留意点、様式	第29週	児童福祉施設における援助 援助経過		
	第15週	集団援助技術 グループとどのように向き合うか	第30週	まとめ		
指導方法 履修上の 注意	講義と同時に、2人や集団での援助技術の実際に取り組む(ロールプレイ)や結果のレポートに積極的に参加するように、試験と同様に授業中の態度を重視する。					
成績評価の 方法	試験(40%) 授業態度(40%) 討議への参加(20%)					
教科書	授業でプリント配布					
参考文献	『社会福祉援助技術』(春見静子、光生館)					

授業科目	施設実習	単位数	2	担当教員	近 喰 晴 子
講義のねらいと概要	<p>施設実習 は、保育所以外の児童福祉施設と知的障がい者施設で行われる実習を指します。本学の主な実習施設として、乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設、知的障がい者支援施設などがあります。原則として、11日間施設に宿泊し利用者と生活をともにしながら実習を行います。</p>				
授業計画	<p>実習施設の一日の生活の流れを知る。</p> <p>保育者の一日の職務を知る。</p> <p>利用者の一日の過ごし方や活動内容を学ぶ。</p> <p>自由時間の過ごし方やレクリエーションについて学ぶ。</p> <p>衣食住に関する支援の実際や配慮事項について学ぶ。</p> <p>日中活動における支援のあり方について学ぶ。</p> <p>福祉施設における保育者の役割について学ぶ。</p> <p>福祉施設内のチームワークのあり方について学ぶ。</p> <p>施設の機能について多様な視点から学ぶ。</p> <p>福祉事務所、児童相談書など他機関との連携について学ぶ。</p> <p>利用者や施設について総合的に学び、実習を振り返る。 以上11日間の学外実習をする。</p>				
指導方法 履修上の 注 意	<p>実習の前後において「福祉施設実習研究」を履修し、実習施設の概要、実習の目的や内容、実習に必要なとされる基本事項を学んだ上で実習に臨むこと。また、実習施設における指導を謙虚に受け止め、実習生にふさわしい言動がとれるようにしておくこと。実習に必要な書類の提出遅延、「福祉施設実習研究」の授業に無断欠席をする、授業時や実習中の態度などによっては本学の「実習派遣規制」によって実習の中止や停止の措置をとるので注意すること。</p>				
成績評価の 方 法	<p>実習園評価（50%） 実習記録（30%） 実習課題（20%）</p>				
教科書					
参考文献	<p>必要に応じて紹介する。</p>				

授業科目	保育所実習	単位数	2	担当教員	土屋 由
講義のねらいと概要	<p>保育所実習は、保育所実習での学びを踏まえ、保育者として必要な資質・能力・技術を習得すること、さらには子どもの保育及び保護者・家庭への支援について総合的に学ぶことをねらいとする。実習の段階としては「参加・責任実習」であり、子どもの生活や発達、保育者の役割へのより一層の理解を深めること、指導計画の作成・実践・省察・評価から保育の過程を理解することなどが求められる。</p>				
授業計画	<p>後期保育所実習は、原則として第3学年の9月（2週間）に実施する。</p> <p>参加・責任実習の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能の具体的展開 <ol style="list-style-type: none"> (1) 養護と教育が一体となって行われる保育 (2) 保育所の社会的役割と責任 2. 観察に基づく保育理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの心身の状態や活動の観察 (2) 保育等の動きや実践の観察 (3) 保育所の生活の流れや展開の把握 3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会などとの連携 <ol style="list-style-type: none"> (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 (2) 入所している子どもの保護者支援と地域の子育て家庭への支援 (3) 地域社会との連携 4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 5. 保育士の業務と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 多様な保育の展開と保育士の業務 (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6. 自己の課題の明確化 				
指導方法 履修上の 注意	<p>保育に関連する教科書・参考文献を読む、また遊びの具体例などについて情報を集めて習熟しておくなど、実習に向けて積極的に自己学習のプランを立て実行すること。</p>				
成績評価の 方法	<p>実習施設による評価（50％）、実習日誌（30％）、実習課題（20％）</p>				
教科書	<p>『実習の手引き』（実習委員会）、『教育・保育・施設実習の手引き』（松本峰雄編著、建帛社） 『保育所保育指針』</p>				
参考文献	<p>保育所実習研究の授業で使用する教科書及び参考文献を参照すること。</p>				

授業科目	保育所実習研究		単位数	1	担当教員	土屋 由
講義のねらいと概要	<p>保育所実習研究は、前期保育所実習（2年次2月）および後期保育所実習（3年次9月）の事前事後指導である。</p> <p>事前指導では、保育所実習の意義や目的を理解する、実習の心構え、実習課題を明確にする、実習記録の意義や記録方法・指導計画を学ぶなど、前期実習から後期実習へと保育についての学びを深めていけるよう必要な準備を行っていく。事後指導では、実習に対する各自の評価・反省を求め、保育者として育つための課題を明らかにしていく。</p>					
授業計画	第1週	オリエンテーション	第16週	後期実習の目的・内容の理解		
	第2週	保育所実習の意義・目的の理解	第17週	実習に必要な書類の作成		
	第3週	前期実習の内容の理解	第18週	実習に必要な書類の作成		
	第4週	保育所についての理解	第19週	実習課題を明らかにする		
	第5週	実習の心構え	第20週	指導案作成上の基本の確認		
	第6週	実習に必要な書類の作成	第21週	指導案の立案 幼児クラス主活動		
	第7週	実習に必要な書類の作成	第22週	指導案の立案 幼児クラス生活場面		
	第8週	実習課題を明らかにする	第23週	指導案の立案 未満児クラスの場合		
	第9週	実習記録の意義の理解	第24週	指導案の立案 未満児クラスの場合		
	第10週	実習記録の実際と方法	第25週	実習に必要な実技の確認		
	第11週	実習記録の実際と方法	第26週	実習記録の実際と方法		
	第12週	実習に必要な実技の確認	第27週	実習内容の振り返りとまとめ		
	第13週	オリエンテーションと実習中の心得	第28週	実習報告会の準備		
	第14週	実習内容の振り返りとまとめ	第29週	実習報告会		
	第15週	後期保育所実習への課題	第30週	実習の総括		
指導方法 履修上の 注意	<p>授業では、保育園での子どもの生活や実際の実習内容のイメージがもてるように、視聴覚教材やワーク・シートを活用する。実習に関する知識を身につけ、必要な準備を進めるために、原則として欠席はしないこと。</p>					
成績評価の方法	課題・レポート（60%） 授業態度（30%） 手続き（10%）					
教科書	『教育・保育・施設実習の手引き』（松本峰雄、建帛社）『実習の手引き』（実習委員会）『保育所保育指針』					
参考文献	『幼稚園・保育所実習の活動の考え方と計画・展開の仕方』（大場牧夫他、萌文書林）『絵画・製作・造形あそび指導百科』（東山 明、ひかりのくに）『実習日誌の書き方』（相馬和子他、萌文書林）『育ちのきほん』（神田英雄、ひとなる書房）					

授業科目	福祉施設実習研究		単位数	1	担当教員	近喰晴子・山崎信一
講義のねらいと概要	福祉施設実習研究は、学内における保育所以外の児童福祉施設での実習に関する事前・事後指導のための授業である。実習の目的や実習内容等のほか実習に必要な書類の作成や、実習施設の情報、事務的な連絡なども行う。実習終了後は体験をまとめ、学んだことをさらに深める取り組みを行う。					
授業計画	第1週	施設実習の意義や目標について	第16週	自己課題への取り組み		
	第2週	実習の手続き	第17週	"		
	第3週	養護を必要とする実習施設について	第18週	"		
	第4週	障がいをもつ人たちの実習施設について	第19週	個別面談		
	第5週	実習書類の作成	第20週	個別面談		
	第6週	実習課題	第21週	自己課題発表		
	第7週	実習内容	第22週	自己課題発表		
	第8週	実習日誌の書き方	第23週	実習報告会（全体）		
	第9週	事前訪問の目的、訪問時のマナー	第24週			
	第10週	実習の留意点	第25週			
	第11週	実習直前指導、	第26週			
	第12週	実習体験報告	第27週			
	第13週	実習の振り返りー実習報告書	第28週			
	第14週	" 自己評価	第29週			
	第15週	" 今後の学習課題	第30週			
指導方法履修上の注意	学内実習という意識で授業に臨むこと。無断遅刻や欠席は原則認めない。授業時の学習態度によっては実習に参加できないこともあるので十分に注意すること。					
成績評価の方法	レポート（50%）、課題（20%）、書類（20%）、授業態度（10%）					
教科書	『福祉施設実習ハンドブック』（岡本幹彦 編、みらい 2,000円）					
参考文献						

授業科目	幼 児 教 育 実 習	単位数	4	担当教員	近 喰 晴 子																																								
講義のねらいと概要	<p>学内で学んだ理論や技能が、幼児教育の現場でどのように活かされ応用することができるかということなどを体験的に学び、保育の営みを総合的に理解する。また、子どもの活動に参加し子ども理解に努めるとともに、保育者の助手的立場を体験しながら保育者の職務理解に努める。観察・参加実習を中心とした前期実習を2年時に、参加・責任実習を中心とした後期実習を3年時に実施する。</p>																																												
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>前期実習</td> <td>実習園の日課を理解する。</td> <td>後期実習</td> <td>配属クラスの日課を理解する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>配属クラスの子どもの名前を覚える。</td> <td></td> <td>配属クラスの子どもの名前を覚える。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>子どもの遊びに参加する。</td> <td></td> <td>子どもの遊びに参加し活動の実態を把握する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>保育の進め方を観察する。</td> <td></td> <td>保育者の導入や指導方法を学ぶ。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>環境の構成について学ぶ。</td> <td></td> <td>保育活動に部分的に参加する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>絵本の読み聞かせや紙芝居などを実践する。</td> <td></td> <td>部分実習をする。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>子どもの興味・関心や思考傾向について知る。</td> <td></td> <td>責任実習にむけ教材研究、指導計画作成などの準備をする。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>保育者の職務について学ぶ。</td> <td></td> <td>責任実習を行う。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>幼稚園の保育について総合的に学ぶ。</td> <td></td> <td>幼稚園の機能や役割について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>前期実習を振り返り後期実習の課題をまとめる。</td> <td></td> <td>後期実習全般の評価をする。</td> </tr> </table>					前期実習	実習園の日課を理解する。	後期実習	配属クラスの日課を理解する。		配属クラスの子どもの名前を覚える。		配属クラスの子どもの名前を覚える。		子どもの遊びに参加する。		子どもの遊びに参加し活動の実態を把握する。		保育の進め方を観察する。		保育者の導入や指導方法を学ぶ。		環境の構成について学ぶ。		保育活動に部分的に参加する。		絵本の読み聞かせや紙芝居などを実践する。		部分実習をする。		子どもの興味・関心や思考傾向について知る。		責任実習にむけ教材研究、指導計画作成などの準備をする。		保育者の職務について学ぶ。		責任実習を行う。		幼稚園の保育について総合的に学ぶ。		幼稚園の機能や役割について学ぶ。		前期実習を振り返り後期実習の課題をまとめる。		後期実習全般の評価をする。
前期実習	実習園の日課を理解する。	後期実習	配属クラスの日課を理解する。																																										
	配属クラスの子どもの名前を覚える。		配属クラスの子どもの名前を覚える。																																										
	子どもの遊びに参加する。		子どもの遊びに参加し活動の実態を把握する。																																										
	保育の進め方を観察する。		保育者の導入や指導方法を学ぶ。																																										
	環境の構成について学ぶ。		保育活動に部分的に参加する。																																										
	絵本の読み聞かせや紙芝居などを実践する。		部分実習をする。																																										
	子どもの興味・関心や思考傾向について知る。		責任実習にむけ教材研究、指導計画作成などの準備をする。																																										
	保育者の職務について学ぶ。		責任実習を行う。																																										
	幼稚園の保育について総合的に学ぶ。		幼稚園の機能や役割について学ぶ。																																										
	前期実習を振り返り後期実習の課題をまとめる。		後期実習全般の評価をする。																																										
指導方法履修上の注意	<p>「幼児教育実習研究」で学んだことを参考に、実習園の指導に従って実習が行われる。実習が効果的に行われるよう事前準備をしっかり行い、謙虚な気持ちで指導を受けること。</p>																																												
成績評価の方法	<p>実習園評価（50%）、実習記録（30%）、課題（20%）</p>																																												
教科書	<p>『幼稚園教育要領』（文部科学省）</p>																																												
参考文献																																													

授業科目	幼 児 教 育 実 習 研 究		単位数	1	担当教員	近喰晴子・永井めぐみ
講義のねらいと概要	教育実習に必要な知識や技能を総合的に学び、効果的な実習となるよう準備を進めるための学内実習授業である。実習に必要な書類の準備、教材研究、評価・反省などを含み不安なく学外実習に臨めるようにする。					
授業計画	第1週	教育実習の目的や意義	第16週	前期実習を終えて		
	第2週	幼稚園とは	第17週	実習報告書の作成		
	第3週	幼稚園の一日の生活	第18週	前期実習の自己評価とレポート		
	第4週	幼稚園の保育内容	第19週	後期実習の課題と学習計画		
	第5週	実習書類の作成	第20週	園評価と実習録評価について個別面談		
	第6週	実習書類の作成	第21週	園評価と実習録評価について個別面談		
	第7週	保育者の一日の生活	第22週	後期実習にむけて		
	第8週	実習課題の作成	第23週	書類の作成		
	第9週	前期実習の目的	第24週	実習課題		
	第10週	事前訪問の意義とマナー	第25週	教材研究		
	第11週	オリエンテーション報告	第26週	指導計画		
	第12週	実習記録の書き方	第27週	事前訪問と実習時のマナー		
	第13週	実習記録の書き方	第28週	後期実習の反省と評価		
	第14週	実習中のマナーや関わり上の留意点	第29週	実習報告書類等の記入		
	第15週	前期実習に向けて	第30週	実習報告会		
指導方法 履修上の 注意	この授業は、学内実習として実習単位に換算される授業である。したがって無断欠席や遅刻早退、授業態度の良し悪しは実習派遣規制にかかわってくるので注意すること。また、実習に関する重要な情報を聞き逃し、必要書類が整えられないなどの原因となるので留意すること。					
成績評価の方法	レポート（50％） 課題（30％） 授業態度（20％）					
教科書	『教育・保育・施設実習の手引』（松本峰雄、建帛社）					
参考文献	『幼稚園教育要領』（文部科学省）					

授業科目	教職実践演習（幼稚園）	単位数	2	担当教員	近喰・土屋・伊藤（明）・金子
講義のねらいと概要	<p>将来の教員像を描けるように、教職の意義を実践的な演習体験を通して学び直し、自己の課題を自覚し、教職生活が円滑にスタートできるようにする。以下4つの具体的なテーマを中心に履修する。</p> <p>使命感や責任感、教育的愛情に関する事項 社会性や対人関係能力に関する事項 幼児理解や学級経営に関する事項 教科・保育内容等の指導力に関する事項</p>				
授業計画	第1週	授業の進め方、グループ分け、課題指示など			
	第2週	- 1 子どもに誠実に接すること・公平に接すること・責任観を持って接することについて、実践事例をもとに討議を行う。			
	第3週	2 保育者の倫理観と規範意識について、実践事例をもとに討議を行う。			
	第4週	- 3 子どもの成長や安全、健康に関する保育者の適切な行動について、指導案をもとに必要な配慮を検討する。			
	第5週	- 1 教育実習の経験から現場での人間関係の基本が身に付いたか、また、教員組織における役割やチームワークのあり方について体験を基に討議する。			
	第6週	- 2 前回話し合った具体的な事例をもとにした役割演技から望ましい教員の職務を体感して理解する。			
	第7週	- 3 体験をもとに、保護者や地域の関係者の意見や要望に耳を傾け、連携協力できるような良好な人間関係を築く方法を役割演技を通じ理解する。			
	第8週	現職幼稚園教諭または教員経験者による講話			
	第9週	1 今日の教育的課題に関し、履修者が実習等の経験にもとづく事例報告を相互に行う。			
	第10週	2 報告された事例への対応について議論を行う。			
	第11週	3 報告をもとに「個々の子どもの特性に応じた対応とは何か」を検討し理解を深める。			
	第12週	- 1 保育内容に関する教材研究を行い、それを生かした指導案を作成する。			
	第13週	- 2 指導案にもとづいた模擬保育を実践し、指導方法に対する討議を行う。			
	第14週	- 3 実践記録を作成し、記録にもとづいた保育の進め方について検証する。			
	第15週	授業全体のまとめと振り返り			
指導方法 履修上の 注意	～ はグループごとに実施する。実施順序はグループにより異なる。				
成績評価の方法	レポート（50%）、発表（30%）、授業態度（20%）				
教科書	『やさしく学べる 保育実践ポートフォリオ』（ミネルヴァ書房）				
参考文献	『全国保育士会倫理綱領』（全国社会福祉協議会）、『育ての心』（フレーベル館）児童権利条約				

授業科目	地域子育て支援論		単位数	2	担当教員	加賀谷・土屋・武田
講義のねらいと概要	<p>現代社会において、子育て支援は子育てをする家庭にとって非常に大きな力となっている。一方で、これらの取り組みが始まってからある程度の時間がたち、より地域に根差した新たな支援も考慮しなければならない。本講義では、地域における保育活動や子育て支援活動について諸説を学ぶとともに、実際の支援活動を行うことで「地域子育て支援」のあり方について学んでいくこととする。</p>					
授業計画	第1週	オリエンテーション	第16週	講義		
	第2週	実地演習に向けて（準備など）	第17週	実地演習 A・B		
	第3週	講義	第18週	講義		
	第4週	実地演習 A・B	第19週	実地演習 A・B		
	第5週	講義	第20週	講義		
	第6週	実地演習 A・B	第21週	実地演習 A・B		
	第7週	講義	第22週	講義		
	第8週	実地演習 A・B	第23週	実地演習 A・B		
	第9週	講義	第24週	講義		
	第10週	実地演習 A・B	第25週	実地演習 A・B		
	第11週	講義	第26週	講義		
	第12週	実地演習 A・B	第27週	実地演習 A・B		
	第13週	講義	第28週	講義		
	第14週	実地演習 A・B	第29週	実地演習 A・B		
	第15週	前期の振り返り	第30週	後期の振り返り		
指導方法 履修上の 注意	<p>他の受講生の意見や考え方を聞き、自分の考えと相対化することで自分の考えをさらに深めてほしい。</p>					
成績評価の方法	<p>授業態度（50%）、課題（50%）</p>					
教科書	<p>授業において紹介する。</p>					
参考文献	<p>授業において紹介する。</p>					

授業科目	カウ ン セ リ ン グ 論	単位数	2	担当教員	加賀谷 崇文
講義のねらいと概要	<p>心の悩みを解決する方法の一つとしてカウンセリングが挙げられる。カウンセリングの場面で重要なことは、悩んでいるクライアントの話を如何に聴き、如何に理解するかである。そこで本授業では、精神分析やロジャーズなどのカウンセリング理論を取りあげ、実習を交えながら、クライアントの悩みの聞き方を考えていく。</p> <p style="text-align: center;"><u>この授業でピアヘルパーの資格受験対策も行う。</u></p>				
授業計画	第1週	カウンセリングの定義			
	第2週	カウンセリングの初期の流れ			
	第3週	実際のカウンセリング			
	第4週	構成的グループ・エンカウンター			
	第5週	ピアヘルピングの方法1			
	第6週	ピアヘルピングの方法2			
	第7週	ピアヘルピングの方法3			
	第8週	ピアヘルピングの方法4			
	第9週	ピアヘルピングの方法5			
	第10週	ピアヘルピングの方法6			
	第11週	カウンセリングで起こりやすい問題点			
	第12週	様々な症例に対するカウンセリング			
	第13週	カウンセリングと保育			
	第14週	カウンセリングと子育て支援			
	第15週	まとめ			
指導方法 履修上の 注意	カウンセリングの理論の中から、人の悩みや話の聴き方を学んでいく。				
成績評価の方法	レポート(100%)				
教科書	『ピアヘルパー・ハンドブック』(日本教育カウンセラー協会編、図書文化社)、『ピアヘルパー・ワークブック』(日本教育カウンセラー協会編、図書文化社)				
参考文献					

授業科目	福祉施設の現状		単位数	2	担当教員	松田鉄蔵
講義のねらいと概要	<p>児童福祉施設（障害関係施設は、児童施設から成人施設までを対象とする）での各施設種別毎の法制度、財政、職員の資質・研修・待遇等を通して、現状認識と、現実の問題点を通して、施設養護のあるべき姿を考察する。また福祉施設にたよらないで、家族の一員として暮らす里親制度の概略の理解の上に、保育資格と里親・専門里親の考えを構築する。施設内での体罰が増加している現状と、保育所での園児の死亡事例、特に上尾保育所での死亡事故（平成17年）事例から保育所を含む福祉施設の「職員像」を考えていきたい。</p>					
授業計画	第1週	社会的養護の必要な子の現状について				
	第2週	児童福祉施設の入所から退所までの手続き・家庭との関係(家庭調整) 地域と福祉施設との連携				
	第3週	障害者自立支援法の概要と今後の福祉及び障害児者福祉施設の体系と施設の役割、障害者の生活について				
	第4週	障害者自立支援法での障害児施設の機能について				
	第5週	社会的養護の必要な子どもたちのための施設とその生活 - 乳児院の現状・				
	第6週	社会的養護の必要な子どもたちのための施設とその生活 - 乳児院の課題、将来の施設像・				
	第7週	社会的養護の必要な子どもたちのための施設とその生活 - 児童養護施設の現状				
	第8週	社会的養護の必要な子どもたちのための施設とその生活 - 児童養護施設の職員体制と生活				
	第9週	社会的養護の必要な子どもたちのための施設とその生活 - 児童養護施設の課題、将来の施設像				
	第10週	里親(専門里親)のドラマから里親と養護施設の生活を考える				
	第11週	里親制度について				
	第12週	新しい動き - 施設型グループホームと里親ファミリーホーム				
	第13週	福祉施設での体罰の事例から、「施設職員像」を考える				
	第14週	上尾保育所での死亡事故（平成17年）の事例から福祉施設職員の仕事を考えてみる				
	第15週	上尾保育所での死亡事故（平成17年）の事例から福祉施設職員の仕事を考えてみる				
指導方法 履修上の 注意	<p>福祉施設として、乳児院、児童養護施設を中心に、里親制度の概要について授業内容を絞っておこなう。施設の概要、対象児・者の理解のためにDVDを活用する。施設内での体罰の事例については、新聞記事を中心にその都度出していく。全国のここ数年の保育所での死亡事故事例を通して、「上尾保育所事故調査委員会報告書」から、福祉現場では働く「職員」のありかたから、自分の近い将来の取り組みの土台を考え得るような授業を行う。</p>					
成績評価の方法	レポート（80%） 授業態度（20%）					
教科書	授業でプリント配布					
参考文献						

授業科目	保育施設経営論	単位数	2	担当教員	福田 武比古
講義のねらいと概要	<p>近年、保育を取りまく動向はめまぐるしく変化している。少子化は進行し、これらに対応するために、児童福祉法の改正、次世代育成支援対策推進法、少子化社会対策基本法等の制定などが相次ぎ、子育ての社会的支援がクローズアップされてきた。一方、地方分権と規制改革の波は保育界にも押し寄せており、保育施設（保育所・幼稚園・認定こども園）の経営にも大きな影響を与えている。</p> <p>本授業では、少子化対策・子育ての社会的支援の主要な柱である保育施設の経営について、あらゆる角度から考えるとともに、保育をめぐる様々な問題について考察し理解する。</p>				
授業計画	第1週	少子・高齢社会と子育ての社会的支援			
	第2週	保育制度と保育の歴史、保育施設（保育所・幼稚園・認定こども園）の機能			
	第3週	保育や子どもをめぐる最近の動向と保育施設の経営			
	第4週	保育施設経営と地方分権・規制改革			
	第5週	保育施設経営と幼保一元化・直接契約・直接補助			
	第6週	保育施設における労務管理と人間関係			
	第7週	保育者の育成・資質向上（自己評価・第三者評価等）			
	第8週	保育施設経営とリスクマネジメント（保健活動・事故防止・安全管理等）			
	第9週	保育ニーズの多様化への対応			
	第10週	地域の子育て支援活動			
	第11週	保育施設経営と財務管理			
	第12週	地域協働のネットワーキング及び保護者・関係機関との連携			
	第13週	保育サービスの質の向上			
	第14週	保育施設の情報管理			
	第15週	保育関連施策と特別保育事業			
指導方法 履修上の 注意	<p>1．教科書及び参考文献その他の資料に基づき講義</p> <p>2．必要に応じて、パズセッション等の演習</p>				
成績評価の方法	レポート（60％）、授業態度（40％）				
教科書	授業時に配布するプリント				
参考文献	『保育所保育指針』、『幼稚園教育要領』				

授業科目	インターンシップ	単位数	2	担当教員	星野 治
講義のねらいと概要	<p>インターンシップは、一言で言うならば「体験就業」学習であり、学生が事業体の方々と実際の仕事を体験することを通して、自分自身にしっかりした職業意識を育て、自分が目指す就職とはどういうものなのかを認識することを目的としています。</p> <p>具体的には、チャイルド関連、その他の様々な企業や施設等で、長期休業期間を利用して一定期間就業を体験する授業です。</p>				
授業計画	<p>第1回 【ガイダンス(1)】 インターンシップの意義、今後の予定、その他。</p> <p>第2回 【ガイダンス(2)】 インターンシップ実習報告会（前回の実習参加者による体験発表）の聴講、その他。</p> <p>第3回 【実習申し込み】 実習申し込みを行わなかった場合、履修を放棄したものとして扱われます。</p> <p>第4回 【選考試験（学科専任教員による学内面接）】 正当な理由がなく選考試験を受験しなかった場合、履修を放棄したものとして扱われます。 選考試験の成績によっては、実習派遣が規制される場合があります。</p> <p>第5回 【実習先事業体の決定】 選考試験の成績や実習先事業体側の都合などにより、必ずしも志望どおりにならない場合があります。</p> <p>第6回 【事前指導(1)】 誓約書および身上書の作成・提出。 必要書類を所定期限までに提出しなかった場合、履修を放棄したものとして扱われます。</p> <p>第7回 【事前指導(2)】 諸注意事項の確認、必要な事務手続きの説明、実習日誌の作成要領、社会人としての基本マナーの確認。</p> <p>第8回</p> <p>第9回 【体験就業（現場実習）】</p> <p>第10回 現場実習は長期休業期間（夏季または春季）を利用して、計10日間以上実施します。 具体的な実施期間は、実習先事業体ごとに異なります。</p> <p>第11回 実習期間が他の学外実習と重複する場合、実習開始前に日程を調整します。 （原則として、国家資格・国家免許の取得に必要な実習のほうが優先されます）</p> <p>第12回 実習先事業体によっては、実習開始前に必要な研修等を行う場合があります。 現場実習を辞退または放棄した場合、履修を放棄したものとして扱われます。</p> <p>第13回</p> <p>第14回 【事後指導(1)】 実習先事業体担当者および本学教員による実習状況の評価。</p> <p>第15回 【事後指導(2)】 インターンシップ実習報告会の実施（日時・場所は別途指示します）。</p>				
指導方法 履修上の 注意	<p>1. 授業（講義形式）は、不定期に開講されます。 具体的な開講日時・開講場所についてはそのつど、掲示等で通知します。</p> <p>2. 【注意】諸事情により夏季実習に参加できなかった前期履修者が、同年度内の春季実習への参加を希望する場合は、後期授業開始時に必ず「再履修」の手続きを行ってください。</p> <p>3. 夏季実習へ参加するには、前期に実施される選考試験を受験して合格する必要があります。 春季実習へ参加するには、後期に実施される選考試験を受験して合格する必要があります。</p> <p>4. 受け入れ学生を“短期的な就労者”あるいは“将来の就職希望者”という観点から評価する事業体が増えているので、本学のイメージを損なうことのないよう、現場においては常に責任ある言動を取るようお願いします。</p>				
成績評価の方法	レポート（60%）、発表（20%）、授業態度（20%）				
教科書	必要に応じて指定します。				
参考文献	必要に応じて随時紹介します。				

授業科目	インターンシップ	単位数	2	担当教員	星野 治																														
講義のねらいと概要	<p>『インターンシップ』での「就業体験」の経験を活かし、さらに、二度目の研修を体験しながら確かな職業意識を持てるようになります。</p> <p>具体的には、チャイルド関連、その他の様々な企業や施設等で、長期休業期間を利用して一定期間研修します。</p>																																		
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>【ガイダンス(1)】 インターンシップの意義、今後の予定、その他。</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>【ガイダンス(2)】 インターンシップ実習報告会（前回の実習参加者による体験発表）の聴講、その他。</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>【実習申し込み】 実習申し込みを行わなかった場合、履修を放棄したものと扱われます。</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>【選考試験（学科専任教員による学内面接）】 正当な理由がなく選考試験を受験しなかった場合、履修を放棄したものと扱われます。 選考試験の成績によっては、実習派遣が規制される場合があります。</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>【実習先事業体の決定】 選考試験の成績や実習先事業体側の都合などにより、必ずしも志望どおりにならない場合があります。</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>【事前指導(1)】 誓約書および身上書の作成・提出。 必要書類を所定期限までに提出しなかった場合、履修を放棄したものと扱われます。</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>【事前指導(2)】 諸注意事項の確認、必要な事務手続きの説明、実習日誌の作成要領、社会人としての基本マナーの確認。</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>【体験就業（現場実習）】</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>現場実習は長期休業期間（夏季または春季）を利用して、計10日間以上実施します。 具体的な実施期間は、実習先事業体ごとに異なります。</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>実習期間が他の学外実習と重複する場合、実習開始前に日程を調整します。 （原則として、国家資格・国家免許の取得に必要な実習のほうが優先されます）</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>実習先事業体によっては、実習開始前に必要な研修等を行う場合があります。 現場実習を辞退または放棄した場合、履修を放棄したものと扱われます。</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>【事後指導(1)】 実習先事業体担当者および本学教員による実習状況の評価。</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>【事後指導(2)】 インターンシップ実習報告会の実施（日時・場所は別途指示します）。</td> </tr> </table>					第1回	【ガイダンス(1)】 インターンシップの意義、今後の予定、その他。	第2回	【ガイダンス(2)】 インターンシップ実習報告会（前回の実習参加者による体験発表）の聴講、その他。	第3回	【実習申し込み】 実習申し込みを行わなかった場合、履修を放棄したものと扱われます。	第4回	【選考試験（学科専任教員による学内面接）】 正当な理由がなく選考試験を受験しなかった場合、履修を放棄したものと扱われます。 選考試験の成績によっては、実習派遣が規制される場合があります。	第5回	【実習先事業体の決定】 選考試験の成績や実習先事業体側の都合などにより、必ずしも志望どおりにならない場合があります。	第6回	【事前指導(1)】 誓約書および身上書の作成・提出。 必要書類を所定期限までに提出しなかった場合、履修を放棄したものと扱われます。	第7回	【事前指導(2)】 諸注意事項の確認、必要な事務手続きの説明、実習日誌の作成要領、社会人としての基本マナーの確認。	第8回		第9回	【体験就業（現場実習）】	第10回	現場実習は長期休業期間（夏季または春季）を利用して、計10日間以上実施します。 具体的な実施期間は、実習先事業体ごとに異なります。	第11回	実習期間が他の学外実習と重複する場合、実習開始前に日程を調整します。 （原則として、国家資格・国家免許の取得に必要な実習のほうが優先されます）	第12回	実習先事業体によっては、実習開始前に必要な研修等を行う場合があります。 現場実習を辞退または放棄した場合、履修を放棄したものと扱われます。	第13回		第14回	【事後指導(1)】 実習先事業体担当者および本学教員による実習状況の評価。	第15回	【事後指導(2)】 インターンシップ実習報告会の実施（日時・場所は別途指示します）。
第1回	【ガイダンス(1)】 インターンシップの意義、今後の予定、その他。																																		
第2回	【ガイダンス(2)】 インターンシップ実習報告会（前回の実習参加者による体験発表）の聴講、その他。																																		
第3回	【実習申し込み】 実習申し込みを行わなかった場合、履修を放棄したものと扱われます。																																		
第4回	【選考試験（学科専任教員による学内面接）】 正当な理由がなく選考試験を受験しなかった場合、履修を放棄したものと扱われます。 選考試験の成績によっては、実習派遣が規制される場合があります。																																		
第5回	【実習先事業体の決定】 選考試験の成績や実習先事業体側の都合などにより、必ずしも志望どおりにならない場合があります。																																		
第6回	【事前指導(1)】 誓約書および身上書の作成・提出。 必要書類を所定期限までに提出しなかった場合、履修を放棄したものと扱われます。																																		
第7回	【事前指導(2)】 諸注意事項の確認、必要な事務手続きの説明、実習日誌の作成要領、社会人としての基本マナーの確認。																																		
第8回																																			
第9回	【体験就業（現場実習）】																																		
第10回	現場実習は長期休業期間（夏季または春季）を利用して、計10日間以上実施します。 具体的な実施期間は、実習先事業体ごとに異なります。																																		
第11回	実習期間が他の学外実習と重複する場合、実習開始前に日程を調整します。 （原則として、国家資格・国家免許の取得に必要な実習のほうが優先されます）																																		
第12回	実習先事業体によっては、実習開始前に必要な研修等を行う場合があります。 現場実習を辞退または放棄した場合、履修を放棄したものと扱われます。																																		
第13回																																			
第14回	【事後指導(1)】 実習先事業体担当者および本学教員による実習状況の評価。																																		
第15回	【事後指導(2)】 インターンシップ実習報告会の実施（日時・場所は別途指示します）。																																		
指導方法 履修上の 注意	<p>本科目を履修するためには、次の[1]または[2]のいずれか一方に該当することが必要です。</p> <p>[1] 『インターンシップ』の単位（2単位）を修得済みであること。</p> <p>[2] 『インターンシップ』の現場実習（夏季または春季）を終了して、評価待ち（単位修得見込み）の状態であること。</p> <p>その他、諸注意事項の詳細は『インターンシップ』の場合と共通です。『インターンシップ』の講義要項を、併せて参照願います。</p> <p>なお、諸事情により夏季実習に参加できなかった前期履修者が、同年度内の春季実習への参加を希望する場合は、後期授業開始時に必ず「再履修」の手続きを行ってください。</p>																																		
成績評価の方法	レポート（60%）、発表（20%）、授業態度（20%）																																		
教科書	必要に応じて指定します。																																		
参考文献	必要に応じて随時紹介します。																																		